

リスクマネジメント

リスク管理体制を整備するとともに、あらゆるリスクの対応に取り組んでいます。

危機管理体制

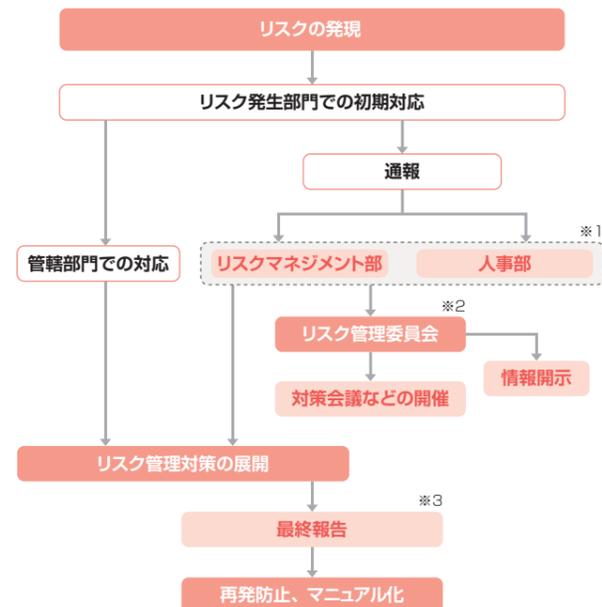
地震、津波、洪水などの自然災害、流行病、テロ、火災など、様々なリスク(危機)が存在し、企業はこれらの危機に対応し、事業を継続的にやっていく使命があります。

当社では、当社グループのリスク全般を管理するためリスク管理委員会を設置し、不測の事態に対応するための危機管理体制を構築しています。70項目あまりの具体的なリスク事象を定め、各部門が主体的に取り組むリスクを明示しています。また、リスク管理委員会の傘下にBCP(事業継続計画)、機密情報管理の各分科会を置き、緊急時の的確な対応のための組織・ルールづくりなど、体制整備の活動を行っています。

リスク発生時には、リスク管理委員会を臨時に召集し、その指揮のもとに所管部門および関係部門が一体となって迅速な対応を行う体制をとっています。

2011年からは国内グループ会社も参加する大地震発生時の初動訓練ならびに復旧立ち上げ訓練を実施しています。これら訓練の反省に基づき、より実践に即した危機対応ができるようBCPや各種マニュアルの改訂を行い、危機管理体制のステップアップを進めています。

■ リスク発生時のフローチャート



※1 リスクマネジメント部は災害・事故などのリスク、オペレーショナル・リスク、法的リスクを、人事部は労務リスク、海外における事件・事故をそれぞれ担当しています
 ※2 事務局は、リスクマネジメント部が担当しています
 ※3 最終報告は、①社長・副社長、②事業所轄本部担当役員、③リスク管理委員会事務局に行われます

オペレーショナル・リスクマネジメント

企業の抱えるリスクは、災害などの事業継続が困難となるような危機的リスクだけでなく、企業活動を遂行する上での日常の業務に潜むリスクもあります。一例ですが、従業員の離職率が高くなることによる業務効率の低下、契約書類の不備に起因した契約不履行による損害賠償、法解釈の間違いに起因した意図せぬ法令違反による罰金などです。これらのオペレーショナル・リスクは、企業にとってボディーブローのように効き、次第に業績の悪化、弱体化をまねく恐れがあります。

当社では、2010年から海外・国内グループ会社におけるオペレーショナル・リスクに対する実態調査を始め、リスクの評価、優先課題の把握、重点的な対策立案を行っています。また、自主点検の手法を導入し、グループ各社が自社による定期的、継続的なモニタリングを行うことで、リスクマネジメントのPDCAサイクルを回せるような体制にすることを目標に活動しています。

オペレーショナル・リスクは、随所に潜んでいますので、今後も各関連部署を支援しながら、リスクの早期発見、早期対策立案を心がけ、当社グループの業績向上に貢献していきます。

VOICE

オペレーショナル・リスクマネジメントの深化を目指す



リスクマネジメント部主任
谷岡 友美

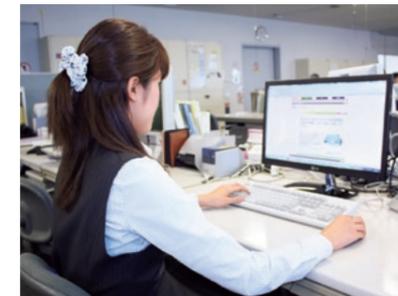
リスクマネジメント部では法務、BCPに加え、グループ経営の観点から国内・海外グループ会社のリスクマネジメント点検を実施していますが、2012年度は、経営/労務/財務/営業/購買/製造などに関わるオペレーショナル・リスクにつき国内グループ各社からヒアリングを実施するとともに、対策の立案を行いました。また、独自の自主点検表を用いてグループ各社によるリスク管理の自己評価も行っています。2013年度はこの点検結果をもとにさらに対策の立案、実施を進める予定です。

グローバルな事業展開がますます活発になる中で、国や地域ごとに異なる政治、文化、宗教、法体系、治安、気候などによりリスクの内容も多様化しています。当社グループ企業がグローバルに安定的な経営を持続する上で、各国拠点におけるリスク管理体制の充実不可欠であり、幅広い視点と柔軟な発想を持って効果的なリスク対策を提案、実施できるよう努めています。

情報セキュリティの確保

当社およびグループ会社各社は、「ニッパツグループセキュリティマネジメントポリシー基本方針」を制定し、この対策基準、実施手順の運用により、お客様やサプライヤーとの取引における情報の流出防止などの情報の保護に努めています。

このポリシーの適用者は、当社およびグループ会社の役員、従業員、外部委託業者の従業員(派遣社員、アルバイトを含む)としています。保有する情報資産は、機密度や内容に応じて、重要度を評価、分類し、適切な管理を行い、機密漏えい、破壊、改ざん、不正利用などをグループ全体で予防しています。



e-ラーニングによる情報セキュリティ教育

VOICE

情報セキュリティの仕組み強化と定着を進める



情報システム部長
鈴木 潤一

情報セキュリティは、お客様をはじめとする、ステークホルダーの皆様からの信頼を勝ち取るために必要不可欠であるだけでなく、安全・安心な社会生活を支えるための重要な基盤であると考えています。当社は、「ニッパツグループセキュリティマネジメントポリシー基本方針」に基づき、当社の情報資産を保護し、業務を円滑に遂行するための基本的な考え方を定め、関連規定類の整備、従業員教育など、情報セキュリティレベルの向上に努めています。

また、情報システム部企画グループは、IT統制、システム監査、情報セキュリティを含むITリスク全般の管理のあり方を常に見直し、ブラッシュアップするとともに、グループ全体へのITガバナンスの構築・定着を進めています。

コンプライアンス

当社は、法令順守はもちろん、社会の様々な要求に誠実に応えることをコンプライアンスととらえ、当社の事業活動のあらゆる局面において順守すべき具体的事項と社会的要求を「ニッパツ社員の行動指針」として定め、コンプライアンスを当社の経営の大きな柱の一つとしています。この当社のコンプライアンス経営実現のために、コンプライアンスの最高責任者を社長とし、全部門を統括する推進責任者、各部門に指導責任者を配置したコンプライアンス体制をとっています。また、「内部通報制度」に加え、簡単にアクセスできるシステムを用い、いつでも誰でも気軽に相談できる「事前相談制度」を設けています。

近年の自動車関連業界の急激なグローバル化にとまぬ、私たちに求められる規範もグローバルなものとなりました。進出した国や地域の文化や人々の風習を尊重し、地域に根ざしていくことはもちろん、国を超えて適用される「国際的な規範」を意識して行動しなければならぬことを強く認識し、コンプライアンスを実践していくことが求められています。こうした国際的な要求に十分に答えられるように、ニッパツおよびニッパツグループの一人ひとりの従業員のすべてがコンプライアンスの知識と意識をしっかりと持ち、愚直に取り組んでいきます。

VOICE

意識の向上と定着に向けた発信活動の推進



リスクマネジメント部
吾郷 愛

コンプライアンスを実現するためには、ニッパツグループ全社、そして従業員一人ひとりの意識向上が欠かせません。どのような行為がコンプライアンス違反になるのか、一度学ぶだけでも、その後の意識の持ち方や行動は大きく変わってきます。リスクマネジメント部は、各種階層別の研修や勉強会を通して、幅広い情報を常時発信し、従業員一人ひとりの意識向上とその定着を図っています。

さらに、グローバル化にとまぬ、海外の法令や社会の要求に応えることも必須課題となりました。国内外を問わず、全社が共通のコンプライアンスの認識を持ったうえで、各々の業務の中でそれを実現していけるよう、継続して発信活動を推進していきます。